

2024年度グローバル教養学部

帰国生徒(外国学校就学経験者)入学試験

1. 実施状況

(1) 志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻等	志願者数	最終合格者数
グローバル教養学部 帰国生徒(外国学校就学経験者)入学試験	17	16

(2) 本入学試験の目的

グローバル教養学部では、英語による総合的なリベラル・アーツの学びを通して、圧倒的な英語力、幅広い教養、そしてグローバル社会の構成員に必要な課題発見・問題解決力を養い、リーダーシップを持ち、成長し続けることができる人材を育成します。日本とオーストラリア両国での学びを通して、多文化社会に生きる人々と協働し、将来、日本をはじめ、アジアそして世界のリーダーとして貢献することに強い意欲を持つ生徒の受験を期待しています。

本入学試験では、書類選考において、高等学校などの成績及びエッセイから、幅広い知識を身につけていく上で必要な学力や英語力を有しているかを審査します。また、面接における口頭試問では、社会問題に対する理解や意見を通して、論理的および批判的思考力、倫理的判断力を持っているかを測ります。そして、面接では、書類選考で提出されたエッセイの内容と合わせて、本学部での学びに対する関心、意欲、態度を問う質問もします。

本学部のアドミッション・ポリシーに定めた素養と資質、学力、関心などを有する学生を選抜することを目的として、書類選考及び面接を実施します。

2. 試験内容

(1) 書類選考

高等学校等の成績、Essay 1及びEssay 2を総合的に評価します。Essay 1及びEssay 2では、以下が求められます。

The purpose of the following two essays is for you to reflect on what you have done from the time you entered high school until now and to identify your reasons and plans for studying at the College of Global Liberal Arts. Please write the essays based on this purpose.

① Essay 1 (within 200 words)

Select one thing you have focused on the most from the time you entered high school until now. Then, describe specifically how this has helped you grow, giving details of actual events that contributed to your growth and what you gained from the process.

② Essay 2 (within 200 words)

Describe what your interests are and how you would like to explore those interests through your study at the College of Global Liberal Arts.

(2) 個人面接

約25分間の面接を英語で実施します。面接で行われる口頭試問については、面接試験日の1週間前に指示書を含め口頭試問に関する資料が送られます。受験生は指示書の内容に基づき準備を行い、口頭試問に臨むことが求められます。また、面接では、書類選考に提出されたエッセイの内容を含めて質問し、本学部で学ぶ素養・資質があるかどうかを確認します。

3. 出題の意図

(1) 書類選考

Essay 1の意図は、志願者の行動パターンや思考の傾向といった行動特性を把握することにあります。高等学校入学以降、最も力を注いだ活動に対して、志願者がどう向き合い、そこから何を学び、どう成長したかなど、その内容から本学部のアドミッション・ポリシーに定められた素養・資質を有するかを審査することを意図しています。

Essay 2の意図は、本学部での学びに対して志願者が強い関心や意欲があるか、積極的な姿勢・態度が示されているかを把握することにあります。そして、本学部を志望する理由を確認することも意図しています。

また、Essay 1、Essay 2を通して、志願者の英語ライティング力を測ることも意図しています。

(2) 個人面接

個人面接における口頭試問の意図は、事前に与えられたトピックに対する理解力や意見構築能力を測ることにあります。学知の基礎となる論理的及び批判的思考力、そしてグローバル社会における倫理的判断力を有しているかを確認し、自らの考えを明瞭に表現し議論できるかを測ることを意図しています。また、口頭試問の準備として、与えられたトピックに関連する資料を読んだ上で、そのトピックに関してさらに調べることが求められます。どのように口頭試問に向けて準備をしたかということから、情報を適切に収集・分析する能力があるか確認することも口頭試問を実施する意図に含まれます。

さらに、書類選考で提出されたEssay 1とEssay 2に基づき質問し、本学部で学んでいく素養・資質があるか、本学部での学びに対して強い関心や意欲、積極的な態度があるかも確認します。

また、口頭試問および面接を通して、英語での口頭コミュニケーション能力を測ることも意図しています。

4. 評価のポイント

(1) 書類選考

Essay 1は、高等学校入学以降、志願者が最も力を注いだ活動を通して、目的を達成するための努力、その中での他者との関係性、自己設定した課題に対する自己評価・ふり返りなどを述べることを求められます。何をしたかという説明に終わらず、そこから何を学び、どう成長したかということが明瞭に分かる内容にすることが高評価につながります。また、Essay 1はタイトルをつけることが求められますが、内容に沿った的確なタイトルをつけることも重要です。

Essay 2は、本学部で学ぶことへの高い意欲と関心、積極的な態度が分かる内容になっていることがポイントです。Essay 1で書いたことと関連づけて、Essay 2を展開できることも高い評価につながります。

また、Essay 1、Essay 2ともに、英語での文章表現力が問われます。エッセイの構成や内容を熟考し、求められていることを限られた語数の中で簡潔且つ明瞭に書くことが肝要です。

(2) 個人面接

面接における口頭試問では、与えられたトピックをどのように理解し、それに対してどう自分の意見を構築し表明できるかが評価のポイントとなります。意見を述べる中で、その論理性や一貫性、批判的思考能力が問われます。資料をしっかりと読み込み理解し、その上で与えられたトピックについてさらに調べ、自分の意見を構築するだけでなく、自分と異なる意見についても検証し、違う視点からもそのトピックについて考えておくことが重要です。また、口頭試問に向けて準備する中で、どのように情報を収集し、どう分析したかも評価に入ります。

また、書類選考で提出されたEssay 1及びEssay 2に基づく質問については、自分の興味・関心を本学部での学びを通してどう深めていくか、その態度・姿勢に積極性が見られるかがポイントとなります。書類選考のEssay 1、Essay 2で書いた内容について、説得力を持って、さらに具体的に説明できるかも重要です。

5. 解答状況

(1) 書類選考

Essay 1、Essay 2に求められる内容を、多くの志願者が水準に達する英語力で書くことができていました。ただ、上位層と下位層の評価の差は大きく、下位層の志願者は、Essay 1においては、何をしたかが中心の展開になっており、そこからどう考え、何を学び、自分の成長にどう役立ったかという説明が不十分な傾向がありました。上位層の志願者は、求められている内容を限られた語数で具体的且つ明瞭に説明することができており、英語での文章構成・表現力ともに水準を超えるレベルでした。また、高得点者には、Essay 1とEssay 2の内容に関連づけが見られました。Essay 1に書いた経験や学びを、Essay 2で本学部での学びにつなげることにより関心や意欲を示し、積極的な学びに対する態度や姿勢が分かる内容となっていました。

(2) 個人面接

英語でのコミュニケーションに問題がある志願者は、ほとんどいませんでしたが、上位層と下位層では、その表現力やコミュニケーション力に大きな差が見られました。口頭試問においては、どう準備を行い、いかに自分自身の意見を構築しているかに差がありました。確固とした意見が構築できている志願者は、適切な方法で情報の収集や分析を行い、さまざまな角度からそのトピックに対する検証ができていました。一方、そうでない志願者は、与えられたトピックについて考えてきてはいたものの、資料の理解が不十分であったり、情報の収集や分析が適切に行われていなかったりする傾向が見られました。

書類選考で提出されたEssay 1及びEssay 2に関する質問については、書類選考の評価以上に、面接では説得力を持って口頭説明ができた志願者もいれば、そうでない志願者もいました。また、本学部を志望する理由については、本学部での学びに対する理解が十分あり、それを自分の経験、関心や興味と結びつけて説明できる志願者とそうでない志願者に分かれる傾向も見られました。

6. 次年度の受験生へのアドバイス

グローバル教養学部では、全ての科目を英語で学びます。入学後、アカデミックな環境における教員やクラスメイトとのコミュニケーションを通して、英語での豊かな表現力、言語運用能力に磨きをかけていきますが、その基礎となる英語力は必須です。入学後積極的に授業に参加できるようにするためにも、読む・書く・聞く・話す、全ての英語スキルをバランスよく身につけることを目指してください。

また、入学要件として必要なTOEFLやIELTSなどの英語スコアと、入学後に立命館大学とオーストラリア国立大学（ANU）の2つの学位を取得するデュアル・ディグリー・プログラムに必要な英語スコアとは異なります。デュアル・ディグリー・プログラムに必要な英語要件は、English Hurdleと呼ばれていますが、入試要項や本学部のウェブサイトなどで必要な点数を確認し、入学前にそのEnglish Hurdleに達することを目指してください。入学後、日々の授業などを通して英語力も向上していきますが、入学前にEnglish Hurdleを超えておくことで、英語の試験対策を気にせず授業に集中することができ、また入学前から高い英語力を身につけておくことで、授業での学びも深いものにすることができます。

そして、本学部では、知識の高度化、現象の複雑化、価値の多様化が進むグローバル社会において、課題を発見し、問題解決の方法を考える力を培っていきます。そのためには、多様な視点、柔軟な対応、他者との協働力が必要です。日頃から様々な社会問題に目を向け、問題意識を持ち、多角的に考察していくことを心がけてください。適切な方法で情報収集を行い、分析し、深く考え、自分自身の意見を構築し、それを表現できるようにすることを目指してください。

思考力も英語力も日々の努力と積み重ねによって身につけていきます。自らの目標を定め、それを達成するために邁進してください。

以上